

夏の夜空に光の余韻を —花火大会開催時に行く現地検査—

予防部規制課

今年も花火の季節がやってきました。誰かの笑顔を思い出し、心待ちにしていた方も多いのではないのでしょうか。花火は私たちの夏を彩る一方、火薬を用いるため危険が伴います。当局では、花火大会が安全に開催され、事故が発生しないよう、火薬類取締法に基づき、書類での安全確認や現地検査を行っています。

1 前日の検査

花火大会の規模や打上花火の量によっては、花火大会の前日に検査を行います。



【検査項目】

- 積み込み状況
- 花火の取扱方法
- 盗難予防の方法
- 打上場所周辺の安全

など

2 打上前の検査

花火業者が立ち会い、花火の種類や数量確認、点火方法、危害予防は適切かなどの検査を行います。



【検査項目】

- 業者の免状等
- 筒の固定状況
- 消火準備
- 安全を保てる距離

など

3 打上中の検査

花火の異常飛翔がないか、立入禁止区域内に係者以外の者がいないかなどの検査を行います。



【検査項目】

- 安全確認後の点火
- 花火本体が開花する高さ
- 花火の飛翔状況
- 火の粉の飛散状況

など

4 打上後の検査

打上場所周辺で花火による災害が発生していないか、不発の花火がないかなどの検査を行います。



【検査項目】

- 打上場所周辺の安全
- 立入禁止区域の状況
- 筒の固定状況
- 不発花火の措置

など

友人や恋人、家族と楽しむ打上花火が最高の思い出となるよう、当局は今年度も花火大会での「事故ゼロ」を目指します。その実現のため、花火関係者の火薬類に関する安全意識を一層高め、事故防止に取り組んでまいります。

ケイボウタイムズ

～警防課の「いま」を伝える～

第27回 消防活動中の「過失事案」に備える

—その損害、誰が補償する？—

警防課〈警防〉

災害現場での活動を支える「警防部 警防課」。
「ケイボウタイムズ」では、毎号、警防課の各担当による「この時期だから伝えたい」旬なネタを掲載するほか、警防課が取り組む施策や事業についてお伝えします。

「過失事案」はいつでも起こり得る！

消火・救助といった警防活動は、市民の生命・身体・財産を守る重要な任務です。何が起るかわからない現場で、隊員は常に細心の注意を払いながら活動しています。それでも、緊急性の高い現場では思わぬ事故が起こるもの。第三者の財物に損害を与えてしまっただけでなく、賠償責任*を問われる事態になることもあります。

ここでは、実際に発生している事故をご紹介しますとともに、損害賠償*に備えるための保険及びその運用の実践について取り上げます。

注

*1「賠償責任」は、過失などにより他人へ損害を与えた場合に、その損害を補う法律上の責任のこと。

*2「損害賠償」は、過失などにより第三者へ損害を与えた場合に、その損害を金銭等で補うこと。
なお、適法な公務執行により市民に特別な負担を与えた場合に、その損失を公平の観点から補うことは「損失補償」と呼ばれます。

消防活動でも賠償責任が生じる場合がある

人命救助が最優先とはいえ、安全確認が不十分だったり必要以上の損害を与えてしまった場合、住民や施設管理者から損害賠償を求められることがあります。

【最近、増えている過失事案】

次に挙げるのは、最近増えている過失事案の一例です。これらは、決して他人事ではなく、同様の事例が全国で実際に発生しています。

スレート屋根の踏抜き／パティション破損／庭木・枝の折損／門扉・塀・フェンスの損傷／放水や資器材取扱いによる壁・床・窓の破損

実際に発生した事故事例

事例1 スレート屋根の踏抜き（写真①）

【概要】 賠償額約8万円

送水管から分岐管を外したため、連結送水管周辺及びエレベーターの竖穴区画へ漏水し、エレベーター本体を水損させたもの。

【原因】

資器材の指差確認不足／隊員相互の意思疎通不足

【教訓】

思い込みで行動せず、隊員相互の意思疎通を徹底することが重要！



①スレート屋根の破損
②パティションの破損
③エレベーター昇降口漏水

万一の賠償責任に備える 「消防業務賠償責任保険」とは？

消防職員が職務の遂行にあたり、過失により第三者に損害を与え、法律上の損害賠償責任を負っ



建物・設備の破損



第三者の財物損壊



賠償金・示談費用
（条件による）



法律上の損害賠償
責任への備え

消防業務賠償責任保険による補償の主な内容

ただし、すべてが補償されるわけではなく、以下のようなケースは補償の対象外となります。

故意による損害／法令違反や著しい安全軽視／業務の範囲を逸脱した行為／保険の対象とならない財物や事由 など

残火処理のため屋根上を移動中、焼損により強度が低下していたスレート屋根を踏み抜き、下階の天井を破損させた。

【原因】

屋根内部の焼損による強度低下の見落とし／危険認識の不足／足場確認不足

【教訓】

安易に屋根上を移動せず、足場強度確認と安全確保を徹底！

事例2 パティション破損（写真②）

【概要】 賠償額約10万円

救助活動中、ベランダに進入する際に床面の確認が不十分であり、着地しようとした際に植木鉢があることを認知し、避けた際にパティションに接触し破損させた。

【原因】

進入場所の確認不足／周囲確認不足

【教訓】

進入場所及び周囲の状況確認を徹底！

事例3 エレベーター水損（写真③）

【概要】 賠償額約65万円

火災指令により出場した消防隊が、警防活動後の資器材収容中にバルブが開放された状態の連結

保険は「最後の備え」

大切なのは「事故を起さないこと」

万が一に備える保険は、消防職員にとっては心強い制度です。

しかし、最も重要なのは、事故を未然に防ぐことです。日頃から指揮者への連絡・了承を得るとともに、安全確認と隊員間の情報共有を徹底し、安全確実な活動に努めましょう。

また、安全を優先し過ぎることによって、活動が消極的にならないようにしましょう。

■事故を防ぐための基本的な活動

- 足元（屋根・床）の強度確認を行う。
- 進入経路等に障害物がないか確認する。
- 資器材の取扱いは周囲を確認してから行う。
- 必要最小限の破壊・放水・活動にとどめる。
- 指揮者への連絡・了承を得るとともに、隊員間で声を掛け合い、情報共有を徹底する。

市民の安心と信頼のために

私たちは、市民の生命・身体・財産を守るといふ重要な使命を担っています。

「安全確実な活動」と「万一への備え」の両輪で、市民の信頼に応える消防活動をしていきたいと思います。

今回のテーマは「落下物」

(警防部司令課)

このコーナーでは、「安全文化の醸成と安全管理の徹底」を図ることを目的に、消火・救助・救急など過去の負傷事例を振り返り、事例からの学びについて紹介していきます。ここで紹介する内容が、皆さんの日々の活動に役立ち、プロフェッショナルとしての安全意識をさらに高める一助となることを願っています。

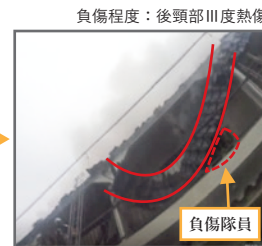
今回は、火災現場での「落下物」による事故事例と対策について紹介します。

事例紹介

木造瓦葺モルタル塗2階建1棟3住宅1空家、建100㎡延200㎡のうち1階35㎡及び天井側壁10㎡、2階100㎡を焼損した火災で発生。救助隊員2名が2階の要救助者の人命検索にあたっていたところ、2階ベランダで検索ロープを確保していた隊員の頭上にあった軒が崩落し、隊員に瓦が当たった為、隊員は横向きに転倒。その際に第1種保安帽のしころと防火衣に隙間が発生し、防火衣の襟と頸部の隙間に燃えた木くずが入り込み、後頸部を熱傷したものと。



崩落直前



崩落時

負傷程度：後頸部Ⅲ度熱傷（軽傷）

火災現場では、屋根が先に抜け落ちると、屋根と一体構造の軒が急激に脆弱化し、落下しやすくなるという特徴があります。今回、負傷職員はこの軒の崩落原理を把握していたにもかかわらず、負傷に至りました。事故が発生した要因を明らかにするため、当時の現場状況を振り返り、検証します。

事故発生当時の現場の状況

「指揮本部及び方面隊により全体的な瓦の落下危険について拡声器等を使って周知されていた。」
「正確な人的情報を掴めていない環境下での活動となり、早期の検索活動の実施が必要であった。」
これらの状況に次の3点が重なったことから事故の発生につながったと考えられる。

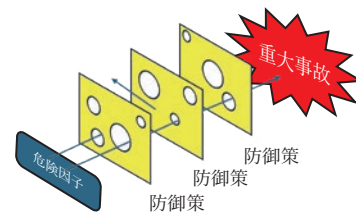
- ① 軒のどの部分が崩落しそうなのかの具体的な指示はなかった。
- ② 負傷職員は軒全体が崩落するとは考えていなかった。
- ③ 危険箇所の確認及び排除が不十分な状態になっていた。

負傷事故発生

重大事故を防ぐためには

英国の心理学者ジェームズ・リーズンが提唱した「スライスチーズモデル」は、危険因子と重大事故の間に複数の防御策が重なって存在するという考え方を図式化したものです。

防御策を穴の開いたチーズのスライスに例え、チーズの穴が脆弱性（抜け・不備）を示します。穴が一直線に重なると危険因子が防御策をすり抜け、重大事故に至ることから、重大事故の防止には防御策を増やし、穴が重ならない状態を保つことが重要です。



スライスチーズモデル

今回の事例では、負傷職員が軒崩落の原理を把握していたことは防御策の一つでした。しかし、危険箇所の把握などが不十分で、危険因子を防ぎきれず負傷に至りました。防御策には、職員一人ひとりの小さな気づきや日常の情報共有も含まれます。職員は自ら安全確保に主体的に取り組み、隊員同士の連携を密にして防御策を重ね、危険因子が重大事故につながる状況を防ぎましょう。

このコーナーでは、日常生活の中で遭遇する突然の災害に対して、どのようなソナエが必要か、皆さんにわかりやすくお伝えしていきます。

いざという時のために、一緒に学んで備えましょう。



のソナエ教室

みんなで学ぼう

今回は…

水害

へのソナエです



日本では、例年7月から10月にかけて、低気圧と前線による大雨が発生しています。近年では、平成26年8月に日本列島各地で連日大雨が発生しました。各地に甚大な被害をもたらした「平成26年8月豪雨」や、令和6年9月に線状降水帯発生による猛烈な雨が降った石川県能登半島では、土砂災害や河川の氾濫により甚大な被害が発生しました。また、令和7年9月には、兵庫県豊岡市で1時間に約100ミリの猛烈な雨が降ったとみられ「記録的短時間大雨情報」が発表されるなど、私たちの生活に大雨による大きな影響が出ています。

万一の時に自分や家族、友人を守るための備えはできていますか？

皆さまご存じでしょうか。令和8年5月に防災気象情報が大きく改正されました。今回は、改正された大雨の警戒レベル（レベル1～5）の違いをわかりやすく伝えるための5色と各警戒レベルに合わせてあなたが取るべき行動を紹介します。

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警戒	レベル5 大雨特別警戒	レベル5 土砂災害特別警戒	レベル5 高潮特別警戒
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警戒	レベル4 大雨危険警戒	レベル4 土砂災害危険警戒	レベル4 高潮危険警戒
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警戒	レベル3 大雨警戒	レベル3 土砂災害警戒	レベル3 高潮警戒
警戒レベル2相当	レベル2 氾濫注意	レベル2 大雨注意	レベル2 土砂災害注意	レベル2 高潮注意
警戒レベル1相当	早期注意情報			

災害発生までの警戒レベルに合わせてあなたが取るべき行動

数日～1日前	レベル1 早期注意情報	- 災害への心構えを一段と高める。 - 家族や友人の連絡体制を確認する。
半日～数時間前	レベル2 注意情報	- ハザードマップなどで災害のリスクを確認する。 - 自治体からの避難情報の把握手段を再確認する。
数時間～3時間前	レベル3 警戒	- 避難に時間がかかる高齢者の方は危険な場所から避難する。 - 高齢者の方に限らず必要に応じて避難の準備や自主避難をする。
2時間～0時間前	レベル4 危険警戒	危険な場所から全員避難する。 - 自治体からの避難情報の把握手段を再確認する。
災害発生	レベル5 特別警戒	安全に避難することができない場合は、無理に避難をせず、今いる場所よりも少しでも安全な場所（建物の上階など）へ直ちに移動する。

いざという時に地域の方々と協力し、災害に対応できるよう、日ごろからソナエしましょう。

本部機動第2救急隊って何してる？ —A15の仕事について—

はじめに

大阪市消防局には、各消防署の救急隊とは別に、本部救急隊が4隊あります。前号(6月号)の「救急いろうは」では、4隊それぞれについて、主な任務や業務を紹介しました。

今号はそこから、本部機動第2救急隊(A15)をピックアップし、日々の活動や「いざ」に備える役割を、もう一歩踏み込んでお伝えします。

本部機動第2救急隊(A15)ってどんな仕事をしているの？

本部機動第2救急隊は、9時から17時30分まで、土日祝を含め毎日運用している「日勤救急隊」です。消防司令補2名、消防士長3名の計5名で編成しています。

平時は福島消防署上福島出張所を待機場所としています。

任務は通常の救急出場だけではなく、大規模

イベントの警戒、移動配備、多数傷病者が発生した際の現場指揮支援活動に加えて、救急活動における奏功事例(救命につながった事例など)の功績表彰事務を担当しています。

大規模イベントにおける警戒任務

大阪市では、毎年、大阪マラソンや淀川花火大会など、さまざまな大規模イベントが開催されています。昨年は大阪・関西万博も開催されました。こうした多くの来場者・参加者が見込まれる会場に、優先的に警戒配備されるのが本部機動第2救急隊です。

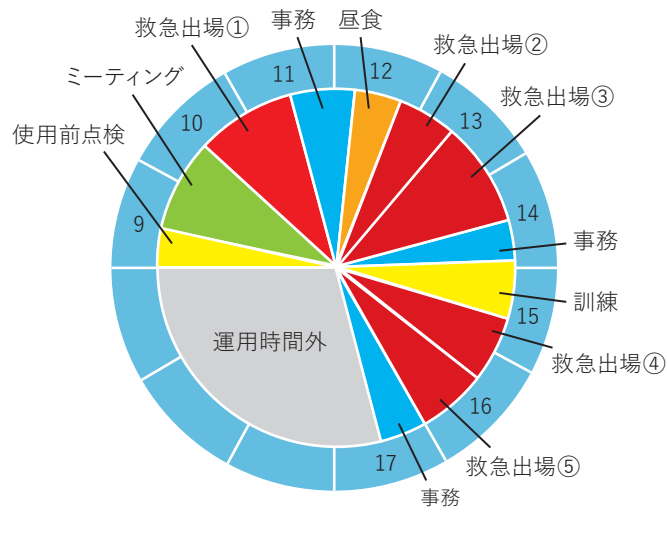
本隊は、本部付けの隊として、組織的な消防活動にスムーズに移行し初動対応できるよう、イベント会場など特異な事案の特性を把握したうえで現地に待機します。救急事案が発生した際に即応できる体制を整え、市民の皆様が安心してイベント等に参加できるよう、機動的に活動しています。

移動配備について

救急車の配置を適宜見直し、市内のどの地域でも現場到着時間が大きく延びないように調整することは、救急課が担う重要な任務の一つです。

夏季や年末年始など出勤が増える時期には、救急要請が特定の地域に集中して周辺の救急車が出払いやすく、到着の遅れが生じることがあります。こうした局面では、本部機動第2救急隊が遅延が見込まれるエリアへ移動配備し、手薄になった地域を補完します。これにより、市全体の救急需要への対応と救急体制の安定化を図っています。

令和7年度は、救急ひつ迫期に2署(旭消防署・北消防署)へ移動配備をし、救急現場対応をしました。日勤帯のみの運用にも関わらず、多い日には1日8件出場しました。



ある1日の流れ—出勤から終業まで—

- 09:00 使用前点検 (写真1)
- 09:30 多数傷病者発生時の活動内容についてミーティング
- 10:26 救急出場①
- 11:40 事務：功績表彰に関する電話対応 (写真2)
- 12:15 昼食
- 12:36 救急出場②
- 13:15 救急出場③
- 14:25 事務：消防局において事務連絡
- 14:50 消防局において想定訓練 (写真3)
- 15:30 救急出場④
- 16:15 救急出場⑤
- 17:00 事務作業
- 17:30 終業



写真3 想定訓練の様子
業務の合間に訓練も行っています。



写真2 各消防署との連絡調整の様子



写真1 使用前点検の様子

おわりに

本部機動第2救急隊は、隊名の通り「機動的」に動ける体制を強みに、助かる命を救うため、そして来るべき大災害に備えるために、これからも大阪市の救急業務の一翼を担っていきます。

令和7年度の移動配備の実績

- 令和7年度夏季(7月～9月)
旭消防署へ移動配備
計67日間 出場件数297件(1日平均4.4件)
- 令和7年度冬季(12月～1月)
北消防署へ移動配備
計28日間 出場件数136件(1日平均4.9件)



最優秀小隊 第4小隊

優勝班 第2班



優勝！やったー！



17日には、消防活動に必要な体力、判断力、注意力、チームワーク等を養成するため、山岳徒歩訓練を実施しました。この訓練では消防学校を出発し、地図とコンパスを頼りに飯盛山や権現の滝を経由して「キャンパイだいてう」を目指しますが各ポイントを正確に通過し、12km先のゴールまでの所要時間を競います。

ゴール後は、「キャンパイだいてう」付近や山道の清掃活動を行い、山岳徒歩訓練を終了しました。

次号以降も、初任教育生の半年間の成長過程をお届けします。ご期待ください！



17日 山岳徒歩訓練



7日 入校式

大阪でも桜が見頃となった4月6日、消防学校では第120回初任教育生の入寮日を迎え、翌7日には今期、18の消防本部から総勢263名（6/22現在261名）が入校しました。

初任教育生は、期待と不安を抱えながら、緊張の面持ちで受付を済ませ、いわず察へ荷物を搬入しました。その後、息つく暇もなく、制服に着替え、入校式の練習を行います。慣れない規律ある動作に戸惑いながらも、何度も繰り返しリハールを行い、翌日の入校式当日には多くの来賓の方々の前で、263名が堂々とした姿を見せてくれました。

そして、15日には任命式が行われ、総代、小隊長、班長、女子学生代表が任命され、中島学校長から辞令を受け取りました。総代を務めるのは、大阪市消防局の藤岡学生です。以下、第1小隊長は、枚方寝屋川消防組合消防本部の植垣学生が、第2小隊長は、枚方寝屋川消防組合消防本部の芳田学生が、第3小隊長は、吹田市消防本部の中峰学生が、第4小隊長は、大阪市消防局の安延学生が、女子学生代表は、枚方寝屋川消防組合消防本部の三谷学生がそれぞれ就任しました。



15日 任命式



茨木市消防本部

茨木市消防音楽隊、45年の歴史に感謝を込めて

去る令和8年3月22日（日）、茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」で開催された茨木市消防音楽隊のラストコンサートは、多くの皆様にご来場いただき、温かい拍手に包まれ、大盛況のうちに幕を閉じることができました。心より感謝申し上げます。

茨木市消防音楽隊は、市民の皆様の「防火・防災意識」を高めるため、昭和56年2月に発足しました。隊員は全員消防職員で、多くが未経験から楽器を手にし、日々の災害対応や指令室業務の傍ら、練習を重ねてきました。様々な式典やイベントで演奏を通じ、防火広報に長年尽力いたしました。しかし、近年の救急出動件数増加やSNSの普及といった社会の変化に伴って、消防の広報活動のあり方を見直し、令和8年3月31日をもって解隊することとなりました。

今後は、SNSなどを活用し、より効果的な「防火・防災意識」の啓発に努めてまいります。

長年にわたる皆様の温かいご支援、誠にありがとうございました。



大東四條畷消防本部

職員から募集したデザインの車両が完成！

大東四條畷消防本部では、設立10周年を機に職員から車両デザインを募集する企画を行い、令和7年度に新デザインのポンプ車と救急車が完成しました。

この企画は、職員の業務への愛着と一体感を高めることを目的に実施したもので、全職員を対象にしたアンケートで選ばれたデザインとなっています。

当消防本部では、署所ごとに消防ホースの色を分けています。加えて新ポンプ車は、その消防ホースの色とシャッターの文字色をリンクさせたデザインとなっており、今後、所属車両の識別が容易となります。

また救急車は、走行中の安全性を高めるため、赤色ラインを増やすことで昼夜問わず視認性を向上させるとともに、後部扉には当公式キャラクターである「SYO坊や」と「火消武将よっしー」を配し、後方から見ると親しみのあるデザインになりました。

今後もこの車両デザインを継続することで、職員の一体感を高め、着実に信頼性の高い消防業務を進めてまいります。



岸和田市消防本部

災害対応訓練を実施しました

岸和田市消防本部では、定期的に大規模災害警備本部の災害対応訓練を実施しています。

令和8年3月19日に実施した訓練は、南海トラフ巨大地震に伴う大規模災害を想定し、発災直後における災害警備本部の設置から運用までの一連の対応能力の向上を目的として、実施しました。訓練はシナリオ型のロールプレイング方式により進行し、各班が情報収集・分析を行い、状況に応じた意思決定と対応を行う実践的な内容としました。

その結果、参集職員の把握や隊編成に時間を要したほか、指令部門と各班間の情報伝達に遅れが生じるなどの課題が明らかとなりました。また、医療機関の受入状況把握や関係機関との連携においても、情報集約のあり方に改善の余地が認められました。

今後は、通信手段の多重化や情報共有体制の明確化、各班の役割分担の再整理を図るとともに、実災害を見据えた継続的な訓練の充実により、組織全体の災害対応力の一層の強化に努めてまいります。



大阪南消防局

奥河内ラジオに生出演！

大阪南消防局では令和8年4月から、奥河内・南河内地域に密着した情報を発信するコミュニティFM放送局「奥河内ラジオ」にご協力いただき、消防関連情報を生放送で地域住民へ届ける取り組みを開始しました。

奥河内ラジオは毎日放送されていますが、消防局の出演は、毎月第2火曜日14時からの「命を守る防災ステーション」(1時間)です。毎月テーマを設け、4月は「マイナ救急」、5月は「住宅用火災警報器と感震ブレーカー」についてとりあげ、救急課・予防課の職員が出演しました。

今後も、熱中症やヒートショック対策、林野火災など季節に応じたテーマの放送を予定しており、住民の皆さまに分かりやすい、予防救急および火災予防の啓発活動を行ってまいります。

奥河内ラジオは FM80.7MHz にて可聴エリア（河内長野市、富田林市、大阪狭山市、千早赤阪村、河南町、太子町の一部）で放送中ですが、圏外の方もインターネットやアプリを通じて聴取可能です。ぜひお聴きください。